



農作業支援活動

将来を見据えた高校を核とした地域創生のカタチ



♪ 愛しきリンゴの小さき花に 若さと春とを見つけて招く ♪



南部町立名久井農業高校!?

人口減少、農家の担い手不足、農家の高齢化は身近な問題



真新しい実習服に身を包みながら農作業をしているのは1年生。名農では入学して間もなく、学校の位置する南部町の農家に出向いて終日実習を行います。学校や教科書だけでは学べない地域農業の実態を学びます。同時に、南部町の農家は何に困っているのかもリサーチし、プロジェクト研究の題材探しも行っています。このような貴重な経験は、事業の企画・運営をして下さる南部町役場や受け入れ農家の皆様のご支援ご協力の下に成り立っています。農業を基幹産業とする地域ならではの取り組みです。そのような意味合いから、名農は県立高校ではありますが、一種の南部町立名久井農業高校のようなプライドも持ち合わせています。南部町は果樹栽培が盛んなこともあり、ほとんどの園地の作業がリンゴの人工授粉でした。そう言えば、名農の校歌には「愛しきリンゴの小さき花に 若さと春とを見つけて招く」の歌詞がありますが、作業風景はまさに校歌のプロモーションビデオのようです。